

# メジャー初V 平田

記録づくめの2勝目

同じミレニアム世代・蟬川、中島振り切った

ツアー制施行後

大会最年少 22歳246日

大会9例目 完全制覇の快挙

順位	氏名	合計	第1R	第2R	第3R	最終R	上位	最終成績	賞金	賞金ランク
1	平田 勝美	277	68	69	69	71	(38)	33	3000.0	①
2	蟬川 泰果	279	70	71	70	68	(34)	34	1260.0	②
3	金谷 拓実	279	75	68	66	70	(34)	36	1260.0	③
4	H.W. リュー	280	70	75	65	70	(34)	36	720.0	④

田が右手を天に突き上げた。14番では初日も20歳の平田を沈めたばかり。ピン、ボール位置も酷似していたという。その瞬間「デジャビュやなあ」と漏らした。打つ前からイメージは良かった。単独首位に再浮上する大きな一打だった。

屈指のオールラウンダーがグリーン上で魅せた。パットの極意は「脳内で線を引き出球とスピードを合わせる」という。続く15番でも下りの4杯を沈め、一気に後の4杯を沈めた。13番ではボードを確認した。中島啓太、蟬川泰果が同世代が迫っていた。「負けたくない」とスイッチが入った。ボギー先行の前半がうそのような猛攻のはじまりだった。

予選落ち。クラブハウスでは悔しさから放心状態だった。母・言った。男子ゴルフ界に新時代の到来勝美さんは「話しかけることもできない」を予感させた。(牧野 真治)

「5バーディー」のボールは15杯先のカップに消えた。追う立場に後退して迎えた14番。左からバタで沈め、クールな平田が右手を天に突き上げた。14番では初日も20歳の平田を沈めたばかり。ピン、ボール位置も酷似していたという。その瞬間「デジャビュやなあ」と漏らした。打つ前からイメージは良かった。単独首位に再浮上する大きな一打だった。

屈指のオールラウンダーがグリーン上で魅せた。パットの極意は「脳内で線を引き出球とスピードを合わせる」という。続く15番でも下りの4杯を沈め、一気に後の4杯を沈めた。13番ではボードを確認した。中島啓太、蟬川泰果が同世代が迫っていた。「負けたくない」とスイッチが入った。ボギー先行の前半がうそのような猛攻のはじまりだった。



2番、ティショットを放つ平田

優勝を果たしキャディーと抱き合い喜ぶ平田(撮影・会津 智海)

**JAPAN PRO 2023**

男子ゴルフツアー  
日本プロ選手権：△最終日・30日▽  
北海道 恵庭CC(7441m、パ  
17) 優勝賞金3000万円 観衆1  
527人

平田勝美(22/ELECOM)が5バー  
ディー、4ボギーの71で回り、通算11

アンダーで初日から首位を守りメジャーを初制覇した。5月のミス・オープンに続くツアー通算2勝目。22歳246日での優勝は73年のツアー制施行後で大会最年少で、今大会での完全Vは12年の谷口徹以来、9例目(8人目)の快挙となった。

**蟬川 一時1打差も…**  
ボード見てリズム狂った

○…同世代の中島、蟬川は一時、1打差にまで迫ったが、終盤に突き放された。中島は15番の完璧なティーショットが飛び過ぎて池ボチャ(ボギー)。最終的には4打差の5位に終わり「トップ10に入れたのは良かったが、あのティーショットは絶対に忘れないと思う」と悔やんだ。また2位に終わった蟬川は14番に向かう途中でボードが目に入り、リズムが狂ったという。「見てないときの方が勝っているのを見ない方が良いのかなと思う」と話していた。



優勝を母・勝美さん(右)と姉・璃乃さん(左)と喜ぶ平田

**母・勝美さんと歓喜のハグ**

○：平田の母・勝美さん(55)、姉・璃乃(りの)さん(26)は優勝の瞬間を見届けようと、急ぎよ大阪から駆けつけた。優勝後、祝福のハグを交わした勝美さんは「私はいつでもOKですが、普段はハグなんてしてくれませんよ」と笑った。5月ミス・オープン優勝後、乾燥機のプレゼントを約束してもらったが、まだ届いていない。今回の優勝で洗濯機もいつか届くかも(笑)と冗談交じりに話していた。

①平田 勝美

ホール	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	計
スコア	4	5	4	4	4	3	5	3	3	4	4	3	4	4	3	4	4	3	4	4	3	4	71
合計	409	552	445	208	405	498	385	270	607	3780	416	403	590	223	445	147	380	393	3661	7441			

②日本プロ選手権(ひらた けんせい) 2000年(平)12月26日生まれ、大阪府吹田市出身の22歳。7歳でゴルフを始め、大院大高から大阪学院大へ。21年の日本学生優勝、将司、83年の中嶋常幸、01年のD・ウィルソン、07年の伊沢利光、09年の池田勇太が達成している。また同じくツアー制施行以降で22歳246日での本大会優勝は最年少記録。21年の金成弦(22歳290日)を更新した。



17番、険しい表情を見せる蟬川